

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<8週> インフルエンザ - 一部の都道府県で減少傾向にあるが、全体的には全国平均の定点当たり報告数は増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<インフルエンザ> 2002年第8週の全国定点からの報告総数は91,248(定点当たり報告数は19.5)



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザ / 感染性胃腸炎



速報
P.6

事業所給食によるノーウォーク様ウイルス食中毒事例 - 大阪市



海外感染症情報
P.7

学童に発生した発疹性疾患 - 米国 / ガボンのエボラ出血熱流行 - 更新



感染症の話
P.8-10

細菌性赤痢

ここ数年、保育園、ホテル、施設での国内集団事例がみられ、2001年末にはカキ喫食が原因とみられる全国規模での散在的集団発生(diffuse outbreak)で多数の患者が報告された。



読者のコーナー
P.11

麻疹のワクチン接種



グラフ総覧(8週)
P.12-18

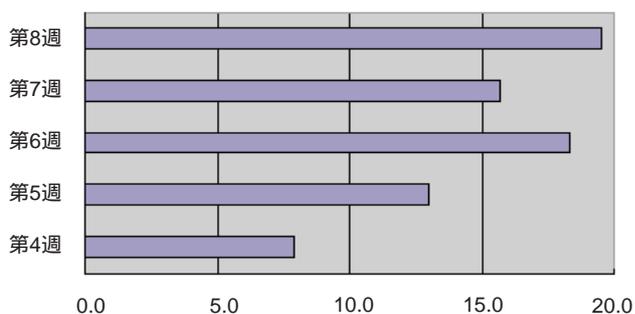


8週のデータ
P.19-26

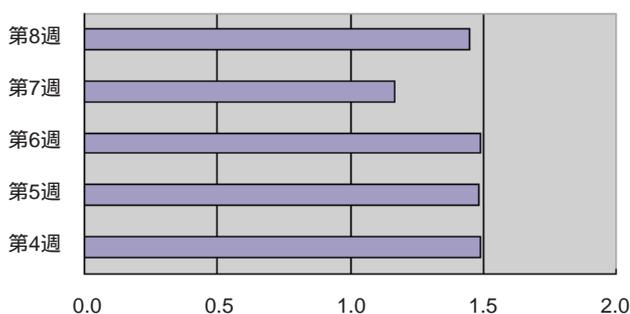
最近の注目疾患－5週間の動き

いずれの疾病も定点当たり報告数が前週より増加している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。

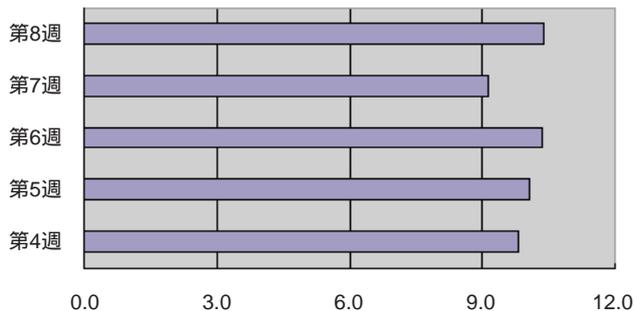
インフルエンザ



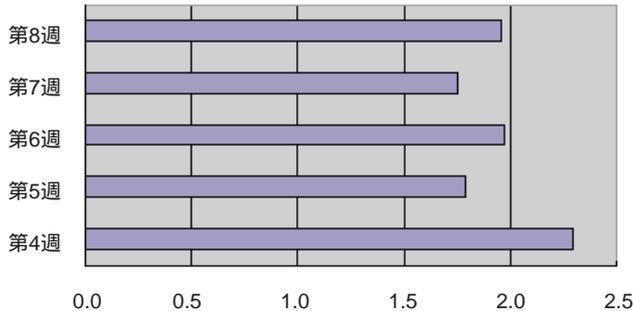
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



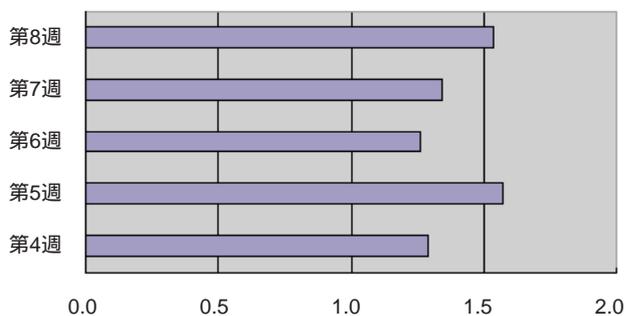
感染性胃腸炎



水痘



流行性耳下腺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



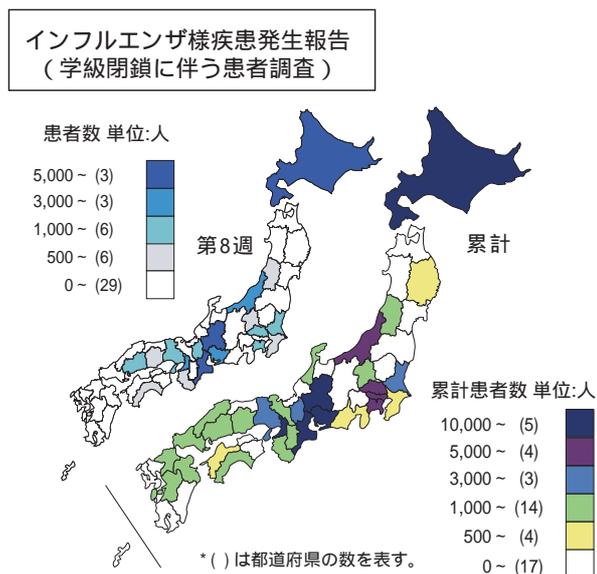
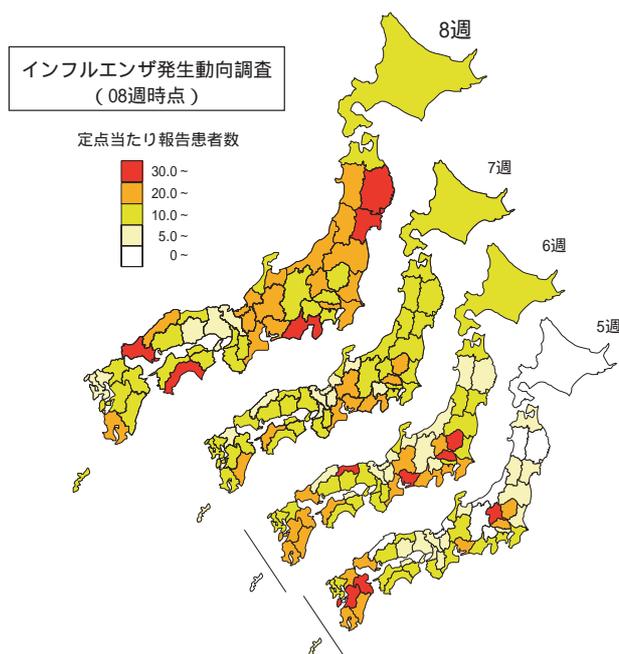
注目すべき感染症

インフルエンザ

2002年第8週の全国定点からのインフルエンザ報告総数は91,248で、定点当たり報告数は19.5であった。本年第1週からの累積患者報告数は37万3,493人である。今週、定点当たり報告数が多くなっているのは、岩手県(31.9)、青森県(31.7)など東北地方、愛媛県(33.3)、広島県(31.6)と東海地方、岐阜県(30.1)、関東地方などである。今週報告された患者を年齢階級別にみると、最も多いのは2～5歳で、5歳以下の子どもが全体の約4割、20歳以上の成人の報告は全体の約2割を占めている。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによれば、国内すべての都道府県内に警報または注意報の発生している保健所がある。大きな流行の存在を示唆する「警報」は、愛知県内の20保健所、埼玉県内の13保健所など計154保健所で発生しており、今後4週間以内に流行現象が生ずる可能性が高い「注意報」は神奈川県、東京都内の24保健所、北海道内の15保健所、兵庫県内の13保健所など、全国計282保健所に発生している(「インフルエンザ警報・注意報マップ」は感染症情報センターホームページ・トピックス「インフルエンザ」参照。インフルエンザウイルスの分離・検出については5ページ病原体検出情報参照)。

厚生労働省が都道府県の学校担当部局などの協力を得て行っている、学校における「インフルエンザ様疾患発生報告」によると、平成13年10月28日から平成14年2月23日までの累積欠席者数は78,736人で、流行が小さかった昨年同期の約3倍となっている。





病原体情報

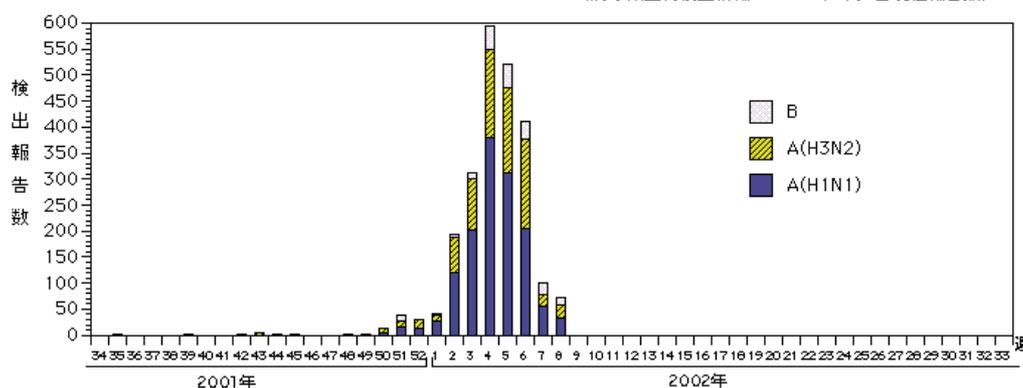
*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年3月1日現在報告分)

インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離・検出報告は、A/ソ連(H1)型が1,372件(新潟県117、広島県95、奈良県78など)、A/香港型(H3)が785件(札幌市97、愛媛県78、福島県47など)、B型は195件(愛知県59、名古屋市33、札幌市11、愛媛県11など)である。最近では、A/ソ連(H1)型が第7週に54(14都県市)、第8週に32(9県市)、A/香港型(H3)が第7週に35(12都県市)、第8週に26(7県市)、B型が第7週に22(6都県市)、第8週に15(4県市)が報告されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報: 2002年3月1日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。
(*他に40週AH3,49週Bが国立仙台病院で分離されている)

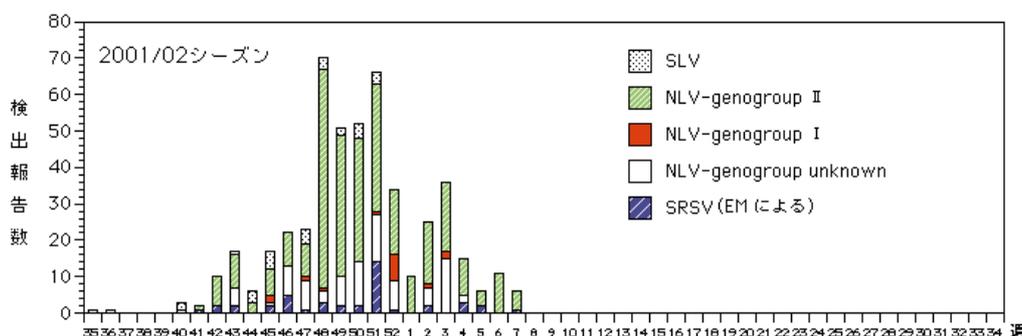


Infectious Agents Surveillance Report

感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSVの検出は、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが308件(広島市54、岩手県38、滋賀県33、大阪市29、岡山県27など)、NLV genogroup Iが15件(滋賀県8、石川県2、広島市2など)、NLV genogroup unknownが91件(新潟県31、山形県17、東京都13など)、サッポロ様ウイルス(SLV)が27件(愛媛県13、岩手県10、広島県4)で、その他に電顕による検出が43件(岡山県18、愛媛県11、北九州市8など)報告された。また、A群ロタウイルス68件(新潟県15、香川県13、奈良県11など)、群不明ロタウイルス4件(北九州市2、静岡市1、熊本県1)の検出が報告されている。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン (病原微生物検出情報: 2002年3月1日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



事業所給食によるノーウォーク様ウイルス食中毒事例 - 大阪市

大阪市内で発生した集団食中毒事例において、患者糞便・調理従事者糞便、および事業所給食(保存食)からノーウォーク様ウイルス(NLV)が検出されたので報告する。2001年12月6日大阪市内の事業所で、嘔気・下痢・腹痛を主訴とする患者が多発していることを探知し、大阪市保健所で聞き取り調査したところ、社員107名中患者は50名であり、12月3～6日の事業所給食を原因とする集団食中毒が疑われたので、食中毒原因物質の検索を実施した。

材料と方法: 12月7～10日に採取された患者糞便30検体、調理従事者糞便3検体、および12月3～6日の保存食4検体についてNLVの検査、同時に食中毒細菌検査を実施した。NLV検査はRT-PCRとリアルタイムPCRを用いて行った(生活安全総合研究事業: 食品中の微生物汚染状況の把握と安全性の評価に関する研究)。RT-PCRは、SR33/48・50・52およびSR33/46を用いて増幅し、プローブハイブリダイゼーションにより型別を行った(検査については、SR33/NV82・SM82で1st PCR後、nested PCRを行った)。リアルタイムPCRは影山らの方法(*Vita*, 18, 2001)に従い、*TaqMan* Universal PCR Master Mix(ABI社)、COG1F/R、RING1-TP(a)(b)およびCOG2F/R、RING2-TPを用いて、ABI 7700(ABI社)でリアルタイムPCRを行った。

結果: リアルタイムPCRにより患者糞便22検体(73%)、調理従事者糞便1検体(33%)、および12月5日の保存食(豚肉の生姜焼き、ポテトサラダ、ひじきの煮付け、みそ汁、御飯等)から20～50 copy/gのNLV genogroup II(GII)が検出されたが、保存食は1日分が一袋にまとめられていたため、原因となった食材の特定はできなかった。RT-PCRでは患者糞便6検体(20%)および調理従事者糞便1検体(33%)からNLV GII(P2B)が検出されたが、いずれの保存食からもNLVを検出できなかった。細菌検査では特定の食中毒菌は検出されなかった。

まとめ: 本事例は12月3～6日の事業所給食を原因とするNLVによる食中毒事例で、喫食者80名のうち50名(発症率63%)が発症し、嘔吐(61%)、下痢(56%)、腹痛(44%)が主な症状であった。患者発生状況は12月6日午後～7日午前に患者40名(80%)が集中しており、単一暴露による感染と考えられたが、患者らの喫食状況からはいずれの食品が原因であるか特定するに至らなかった。

リアルタイムPCRを用いたNLV検出法は、通常、RT-PCRに比べ感度・特異性・迅速性に優れており、また、nested PCRよりコンタミネーションの危険性も低く、NLVによる食中毒や感染症における行政検査に有用であると考えられる。

大阪市立環境科学研究所

勢戸祥介 入谷展弘 久保英幸

阿部仁一郎 村上 司 春木孝祐

(IASR2002年3月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

学童に発生した発疹性疾患 - 米国

MMWR 2002年3月1日

米国の14州(アリゾナ、コネチカット、フロリダ、ジョージア、インディアナ、ミシシッピ、ニューヨーク、オハイオ、オレゴン、ペンシルバニア、テキサス、バージニア、ワシントン、ウェストバージニア)から、多数の学童が紅斑を発症したと報告された。この報告書では、2001年10月から2002年2月までに起こった紅斑例を調査した州および地方保健局の報告をまとめている。予備的な調査結果から、これらの紅斑に対して共通の原因が存在するかどうかを判断するには、さらなる調査の必要性が示唆される。

最初の報告例は2001年10月4日にインディアナ州で発生し、ついで11月20日にバージニア州で複数の患者が発生した。続いて紅斑の患者発生は1月下旬に始まり、2月21日ごろまで続いた。紅斑は主に小学生から報告されたが、中学校や高校の生徒でも少数の報告があった。各々の州で感染した生徒の数は、10人未満からおよそ600人の範囲であった。学校の先生や職員に少数の患者発生がみられたが、親や兄弟の感染はほとんど見られなかった。

紅斑の特徴は様々であるが、発症は概して急性であり、典型的には、顔、首、手、上腕に斑状丘疹性紅斑を呈し、時として網目状パターンを示す。紅斑の持続期間は様々であるが、多くは激しい掻痒感を伴う。紅斑の原因として、既に明らかにされている環境物質への曝露や病原体によるものではなかった。紅斑が出現した子供には発熱がみられず、通常、他の関連する徴候や症状はない。紅斑は数時間から2週間持続し、自然治癒傾向があることが判明している。2次感染は報告されていないが、学校内での同時期の発生例は報告された。子供を診察した臨床医の診断には、ウイルス性発疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、湿疹、化学物質の曝露、膿痂疹、ツタウルシによるかぶれ、などが含まれていた。4州でおよそ40件の血液検体が集められたが、パルボウイルスB19に対するPCR、およびIgM抗体検査は陰性であった。22件の鼻腔拭い検体については、エンテロウイルスが陰性であった。また、原因となる環境物質は同定されていない。

MMWR編集者注

病原体が原因の発疹は通常頭痛や発熱といった症状が先行したり、伴ったりする。しかし、今回の報告では、患児は全員が全身性感染症の病態を示さず、発疹も自然治癒傾向を示した。

学童での発疹性疾患に最も一般的なウイルスとしては、パルボウイルスB19があり、これは伝染性紅斑(リンゴ病)を引き起こす。リンゴ病は軽症の発疹性疾患であり、顔面、体幹、四肢にそれぞれ特徴的な発疹が発現し、掻痒感を伴うこともある。発疹は7～10日以内に治癒する。微熱、倦怠感、上気道症状が通常発疹に先行する。

ガボンのエボラ出血熱流行 - 更新

WHO/CSR 2002年2月25日

2002年2月23日にガボン保健省は、48名の死亡を含む57名のエボラ出血熱の診断確定患者を報告した。接触者の追跡および監視が引き続き行われている。



感染症の話

細菌性赤痢

細菌性赤痢は2類感染症である。わが国の赤痢患者数は、戦後しばらくは10万人を超え、2万人近くもの死者をみたが、1965年半ば頃から激減し、1974年には2,000人を割り、以降1,000人前後で推移している。

最近では、主にアジア地域からの輸入例が半数以上を占めている。しかしここ数年、保育園、ホテル、施設での国内集団事例がみられ、また、1998年には長崎市の大学および附属高校で、患者数821名をみた井戸水を原因とする大規模事例が発生している。2001年末には、カキ喫食が原因とみられる全国規模での散在的集団発生(diffuse outbreak)で多数の患者が報告された。

疫学

細菌性赤痢の主な感染源はヒトであり、患者や保菌者の糞便、それらに汚染された手指、食品、水、ハエ、器物を介して直接、あるいは間接的に感染する。水系感染は大規模な集団発生を起こす。感染源がヒトであるので、衛生水準の向上と共にその発生は減少する。サルモネラ細菌性赤痢に罹患し、輸入ザルが感染源になった事例もある。

感染菌量は10～100個と極めて少なく、家族内での二次感染は40%もみられる。世界的にみれば患者の約80%が10歳未満の小児である。わが国でも大戦後まもなくは同様の状況であったが、1970年代後半から患者数が激減し、現在では国外感染事例が70～80%を占めており、推定感染地としてインド、インドネシア、タイなどのアジア地域が多い。また、近年の患者の70～80%は青年層である。

2000年に指定感染症医療機関で分離された *Shigella* の薬剤感受性試験成績によると、国内例、輸入例とも84%以上がST合剤、およびテトラサイクリン(TC)に耐性であった。ホスホマイシン(FOM)耐性株は国内例、輸入例ともに検出されており(表1)、今後増加することが危惧される。1998年の集計で見られたニューキノロン薬のオフロキサシン(OFLX)に耐性を示す株は、2000年の集計では認められていないが、検査件数が大幅に減少しているため耐性菌の増減をはっきりと言うことはできない。

疫学マーカーとしては、パルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE)による遺伝子解析が一般的に行われている。

表1. 赤痢菌の主な薬剤に対する耐性頻度(指定感染症医療機関, 2000年)

	国内例			輸入例		
	検査株数	耐性株数	耐性%	検査株数	耐性株数	耐性%
CP	26	8	30.8	19	5	26.3
TC	26	25	96.2	19	18	94.7
KM	26	7	26.9	19	6	31.6
ABPC	52	22	42.3	41	14	34.1
NA	23	3	13.0	19	3	15.8
CL	9	1	11.1	6	1	16.7
ST	50	42	84.0	40	34	85.0
PPA	14	1	7.1	11	1	9.1
EM	16	16	100.0	11	11	100.0
CEZ	23	1	4.3	15	1	6.7
LCM	7	7	100.0	5	5	100.0
GM	24	0	0.0	17	0	0.0
FOM	33	4	12.1	25	4	16.0
OFLX	14	0	0.0	9	0	0.0
ENX	6	0	0.0	4	0	0.0
NFLX	6	0	0.0	4	0	0.0

東京都及び12指定都市の15指定感染症医療機関に入院した患者について集計した。(感染性腸炎研究会による)

病原体

細菌性赤痢の原因菌は赤痢菌 (*Shigella*)である。*Shigella* 属には4菌種 (*S. dysenteriae*, *S. flexneri*, *S. boydii*, *S. sonnei*)が含まれる。さらに、各菌種は血清型に細分される。短桿菌で、鞭毛はない。経口摂取された赤痢菌は大腸上皮細胞に侵入した後、隣接細胞へと再侵入を繰り返し、上皮細胞の壊死、脱落が起こり、血性下痢の症状となる。培養細胞を用いた細胞侵入像を写真1に示す。

国内発生例は*S. sonnei* が70～80%を占めている。

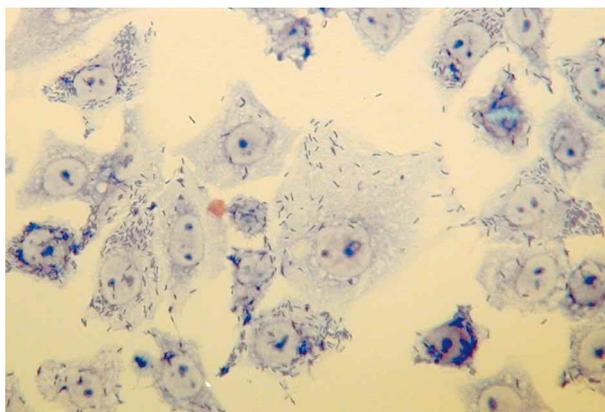


写真1. 培養細胞を用いた赤痢菌の細胞侵入像。HeLa細胞に侵入した*S. flexneri* が細胞質内で増殖し、その一部は隣接細胞へと移行しようとしている。

臨床症状

通常、潜伏期1～3日で発症し、全身の倦怠感、悪寒を伴う急激な発熱、水様性下痢を呈する。発熱は1～2日続き、腹痛、しぶり腹(テネスマス)、膿粘血便などの赤痢症状をみる(写真2)。近年では重症例は少なく、数回の下痢や軽度の発熱で経過する事例が多い。通常、*S. dysenteriae* や*S. flexneri* は典型的な症状を起こす事が多いが、*S. sonnei* の場合は軽度な下痢、あるいは無症状に経過することが多い。



写真2. 典型的な細菌性赤痢の膿粘血便

病原診断

確定診断は糞便からの赤痢菌の検出による。大便からは、DHL寒天培地やマッコンキー寒天培地で分離する。*Shigella* はDHL寒天培地やマッコンキー寒天培地上で、37℃ 1夜培養後、直径約1～2mmの無色、半透明、湿潤な集落を形成する。DHL寒天培地上の*Shigella* の集落を写真3に示す。

Shigella の迅速診断法として遺伝子診断がある。これは腸管侵入性に必須な大型プラスミド上の侵入性関連遺伝子群を、DNAプローブ法やそれらを標的としたPCR法で検出する方法である。PCR法はDNAプローブより100倍も感度が高く、検体中(大便を含む)に10個の*Shigella* が存在すれば増菌なしでも検出できると言われている。

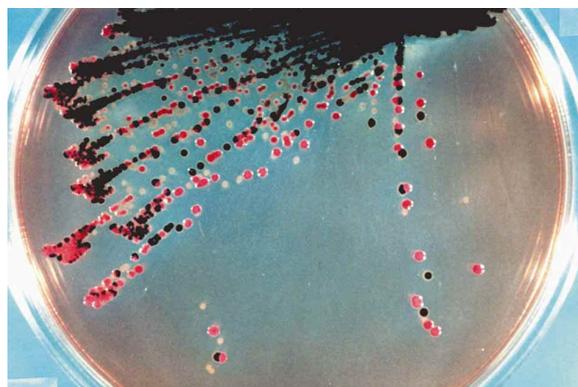


写真3. 1個の赤痢菌はDHL寒天培地上で1夜たつと、直径約1～2mmの無色の集落を形成する。なお、同じ培地上にみられる赤色集落は大腸菌、黒色集落はサルモネラである。

治療・予防

治療には対症療法と抗菌薬療法がある。

対症療法としては、強力な止瀉薬は使用せずに、乳酸菌、ビフィズス菌などの生菌整腸薬を併用する。解熱剤は脱水を増悪させることがあり、またニューキノロン薬と併用できない薬剤が多いので慎重に選択する。脱水が強い場合には、静脈内あるいは経口輸液(スポーツ飲料でよい)を行う。

抗菌薬療法としては、成人ではニューキノロン薬、適用のある小児にはノルフロキサシン(NLFX)、適応のない5歳未満の小児にはFOMを選択し、常用量5日間の内服投与を行う。治療終了後48時間以降に、24時間以上の間隔で2~3回糞便の培養検査をし、2回連続で陰性であれば除菌されたとみなす。

予防の基本は感染経路を遮断することにある。上下水道の整備と個人の衛生観念の向上(特に手洗いの励行)は、経口感染症の予防の原点である。輸入例が大半を占めることから、汚染地域と考えられる国では生もの、生水、氷などは飲食しない事が重要である。国内では、小児や高齢者などの易感染者への感染を防ぐことが大切である。

感染症法における取り扱い

細菌性赤痢は2類感染症であり、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料)便など

・病原体の検出

赤痢菌の分離・培養

疑似症の診断

臨床所見、赤痢流行地への渡航歴、集団発生の状況などにより判断する。

(鑑別診断)カンピロバクター、赤痢アメーバ、腸管出血性大腸菌等による他の感染性腸炎等

食品衛生法での取り扱い

感染症法の施行にともない、平成11年12月28日食品衛生法施行規則の一部が改正され、飲食に起因する健康被害(foodborne disease)は食中毒であることを明確にするため、食中毒事件票の病因物質として赤痢菌等が追加された(http://www1.mhlw.go.jp/topics/syokueihou/tp1228-1_13.html参照)。

学校保健法での取り扱い

本疾患は学校保健法上、第一種の伝染病に分類されているが、感染症法にて2類感染症に指定されていることより、原則として患者は指定医療機関に入院するので、治癒するまで出席停止となっている。

(国立感染症研究所細菌部 荒川英二)



読者のコーナー

Q: 10カ月時に麻疹に罹患した可能性のある児に対して、今後のワクチン接種についての質問です。

10カ月時の疾患が麻疹かどうかはつきりしない方ですが、現在11カ月半です。かつ当地でも乳幼児の麻疹が散発しています。10カ月時に麻疹に罹患していたとしても、1歳になったらすぐに公費で麻疹ワクチンを接種しても副反応や抗体形成に関して問題はないでしょうか？それとも、採血し抗体価の確認をしてから接種の是非を決定すべきでしょうか？ (愛知県内科医)

麻疹のワクチン接種

ご質問の患者さんですが、明らかに麻疹に罹患されていたのであれば、1歳以降に麻しんワクチンを接種する必要は全くないことから、やはり抗体価の確認(CF法以外の方法で)をされるのが一番良いと思います。ただし、もしかかったことがあるのを知らずにワクチンを接種したとしても、副反応や既に獲得されている免疫に特別問題が生じることはありませんので、ご安心下さい。

以上参考になりましたら幸いです。

(国立感染症研究所感染症情報センター 多屋馨子・岡部信彦)

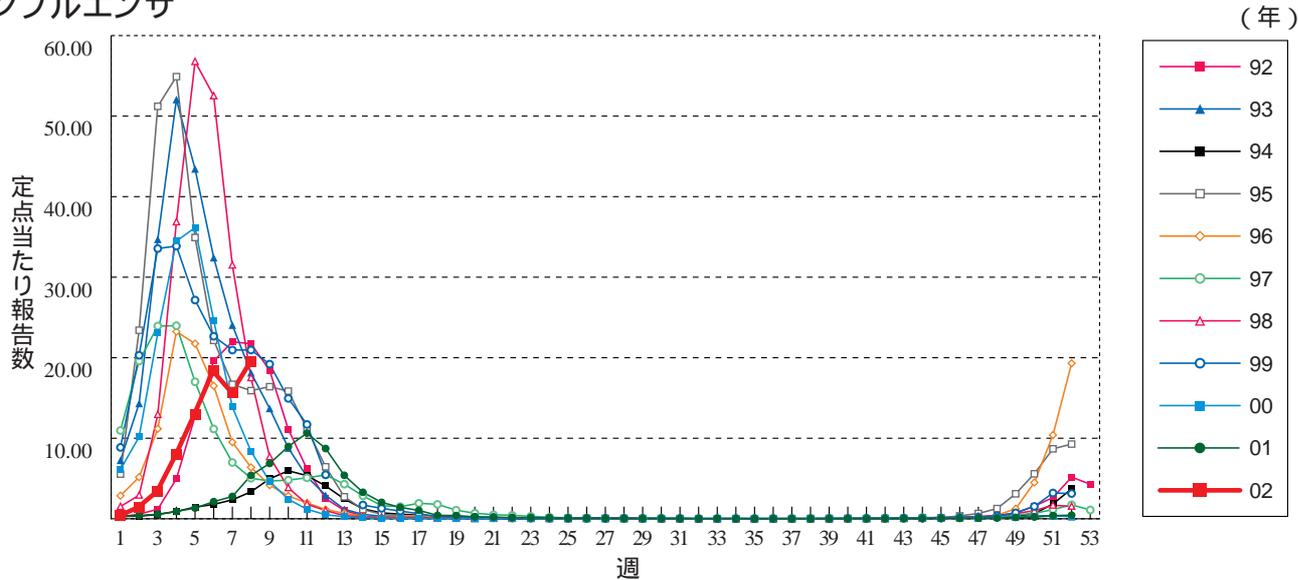
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。

ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

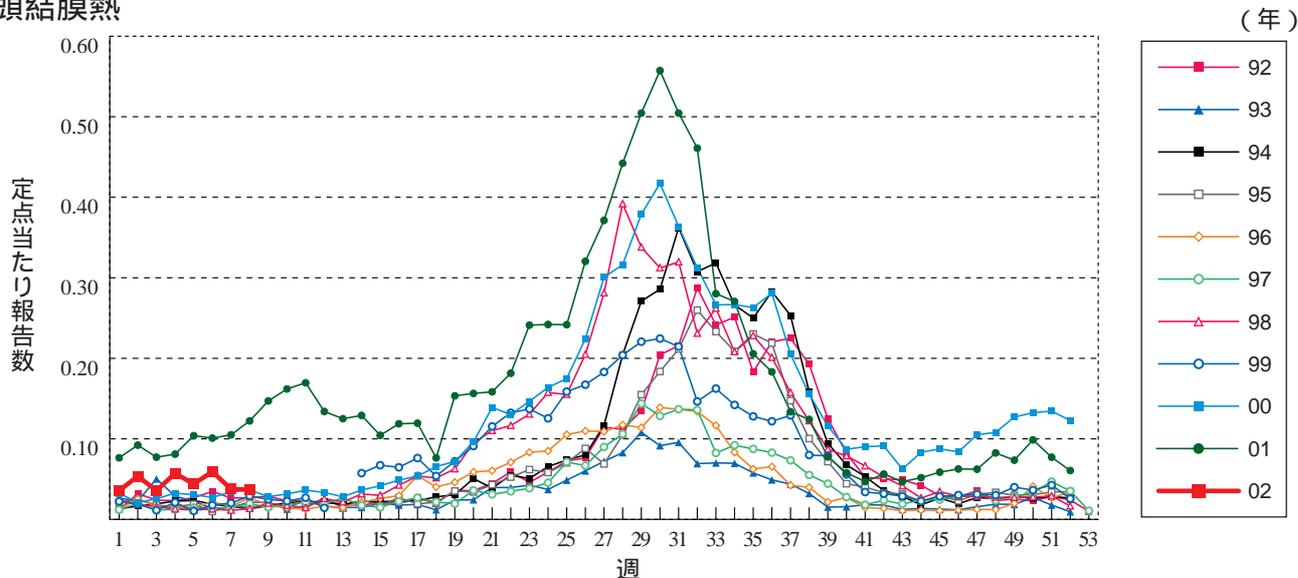
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(8週)

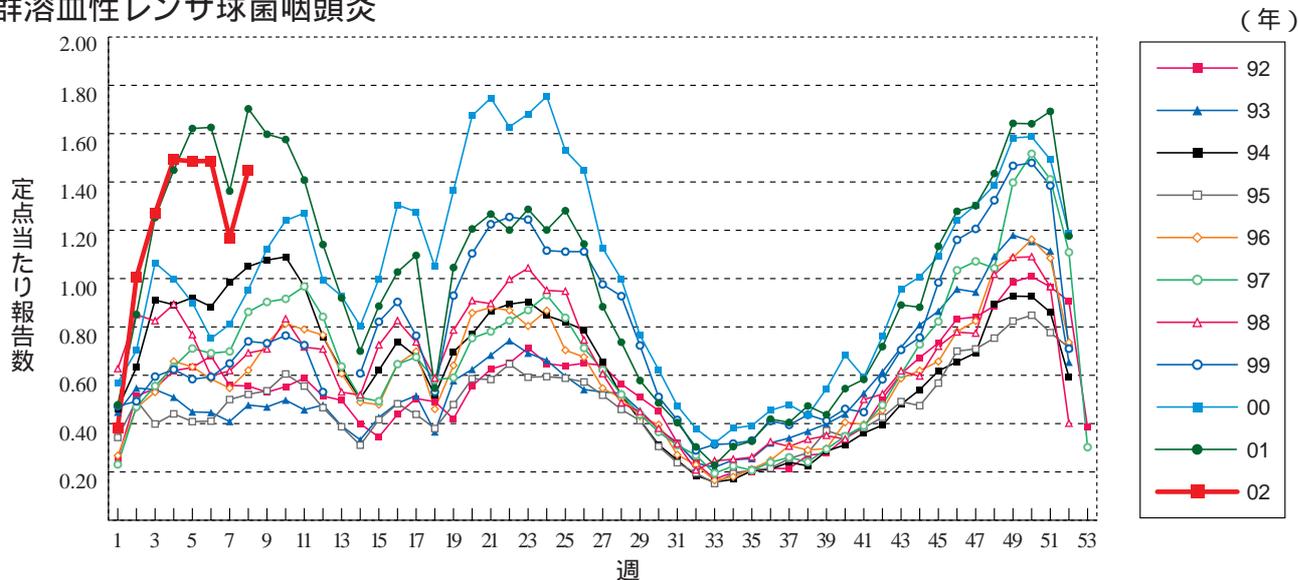
インフルエンザ



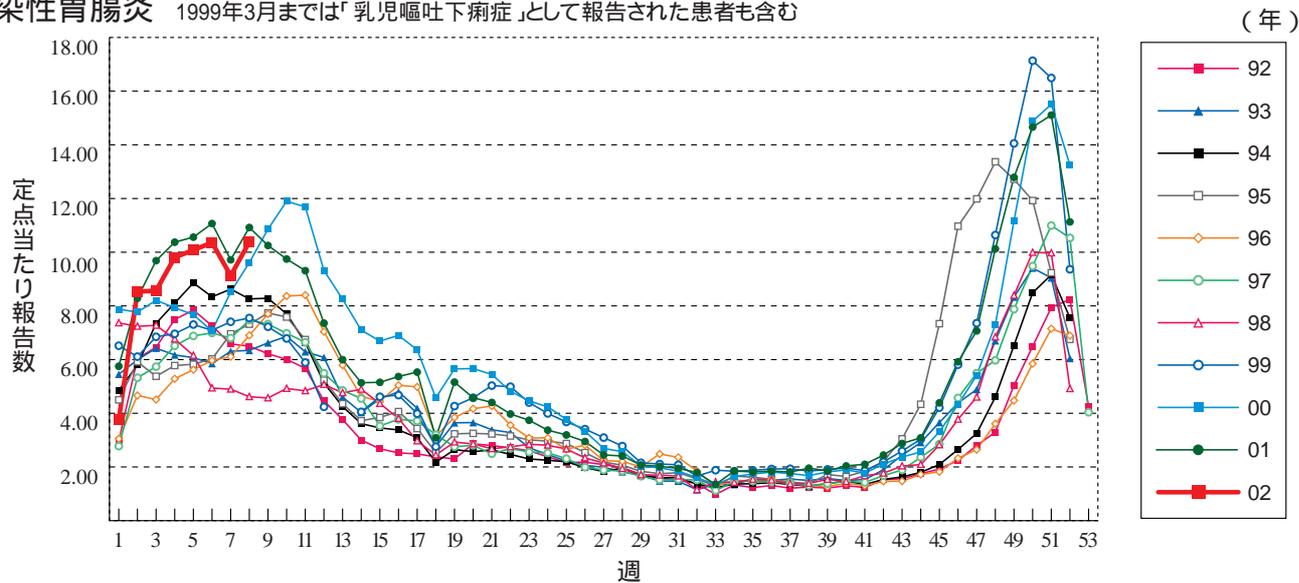
咽頭結膜熱



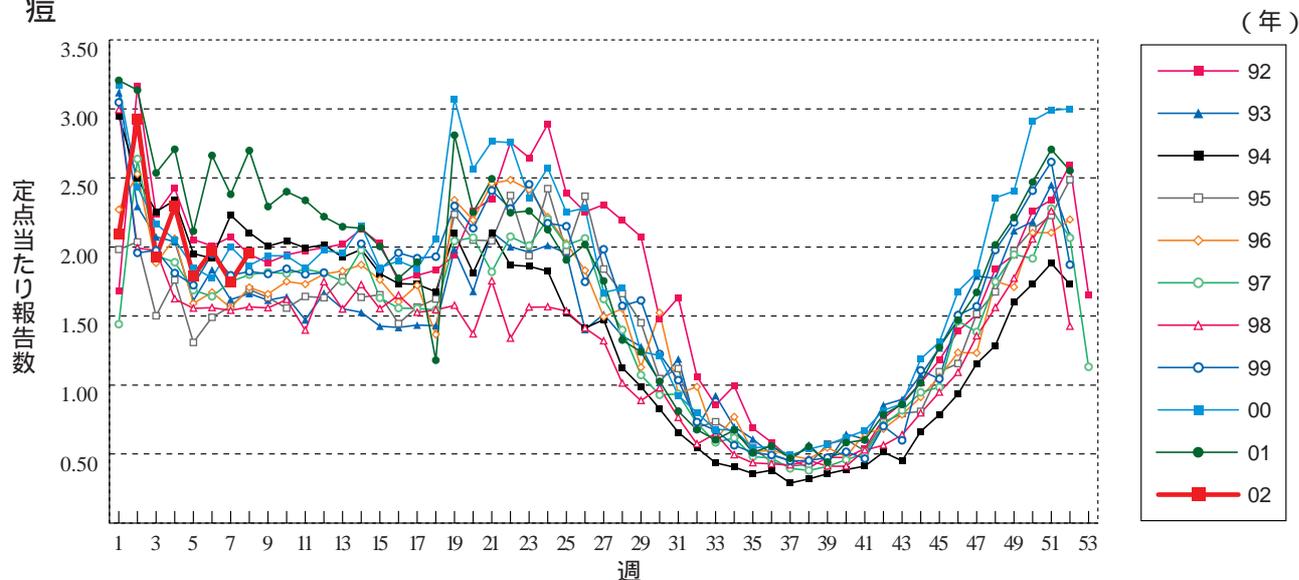
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



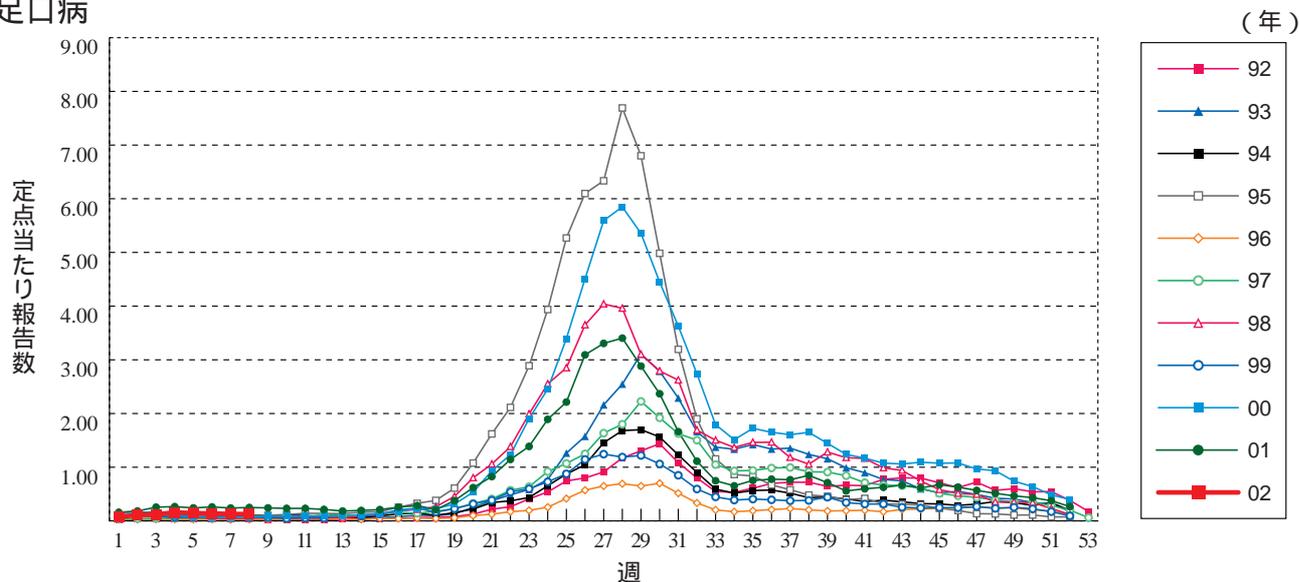
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



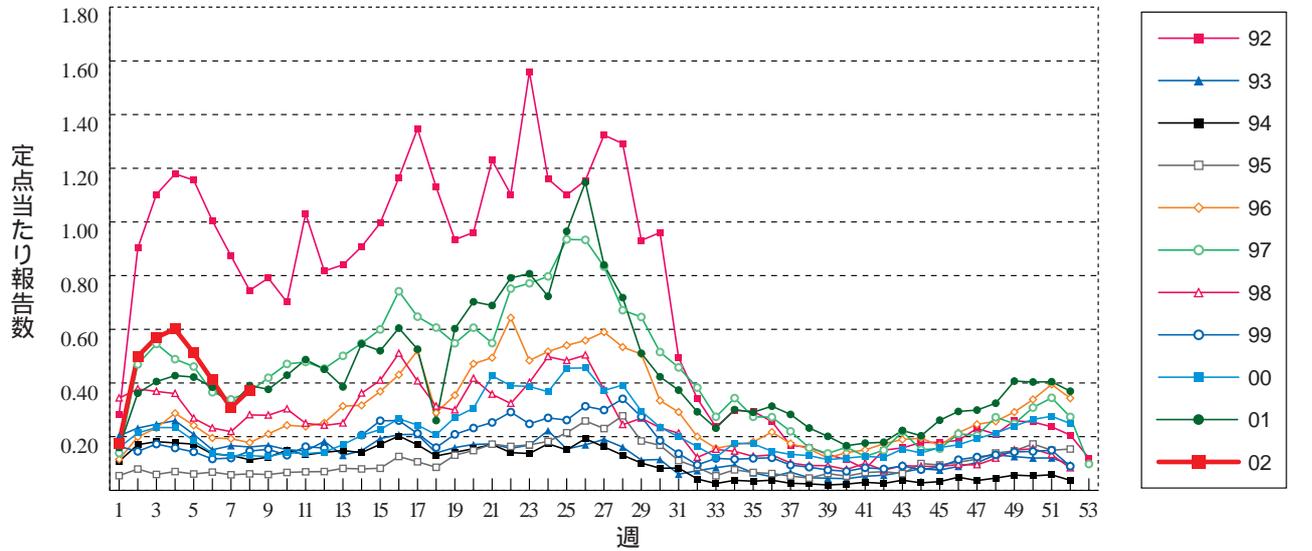
水痘



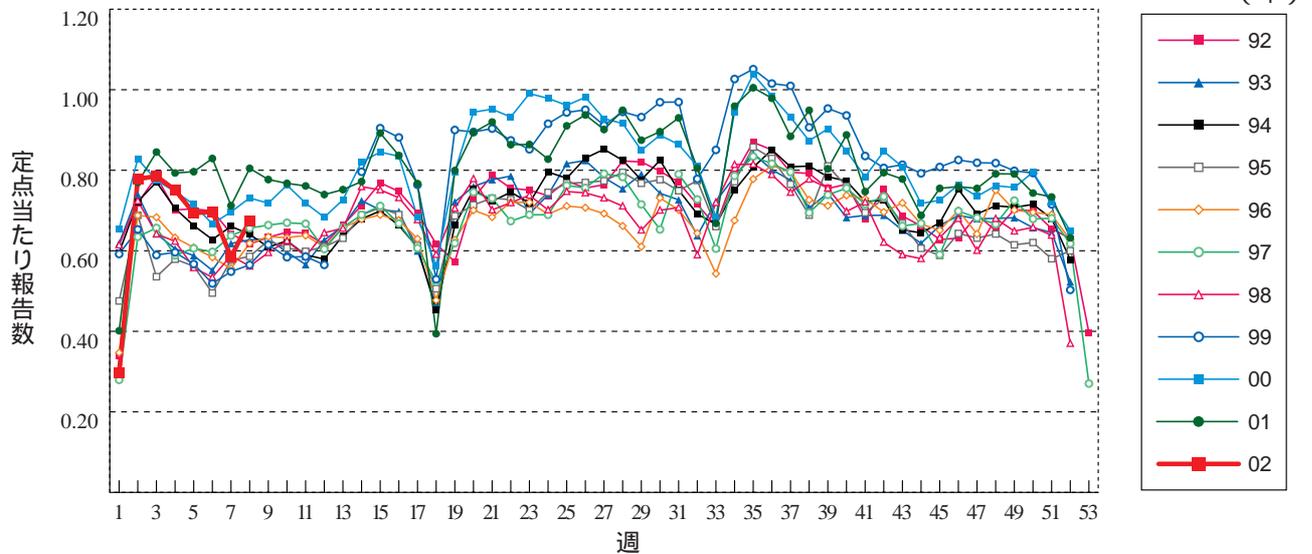
手足口病



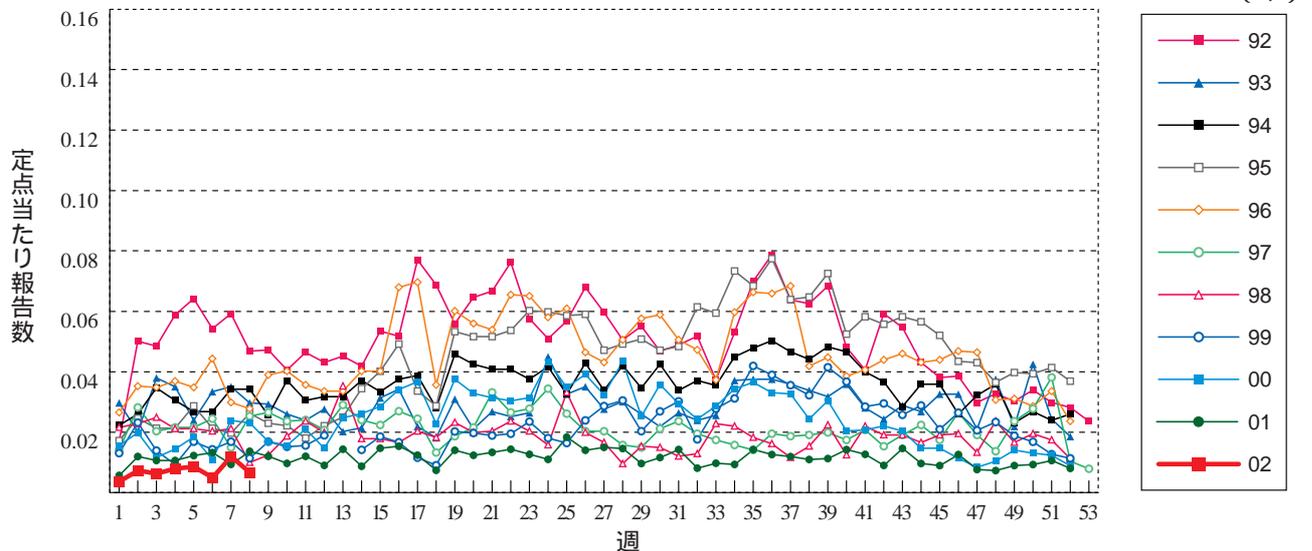
伝染性紅斑



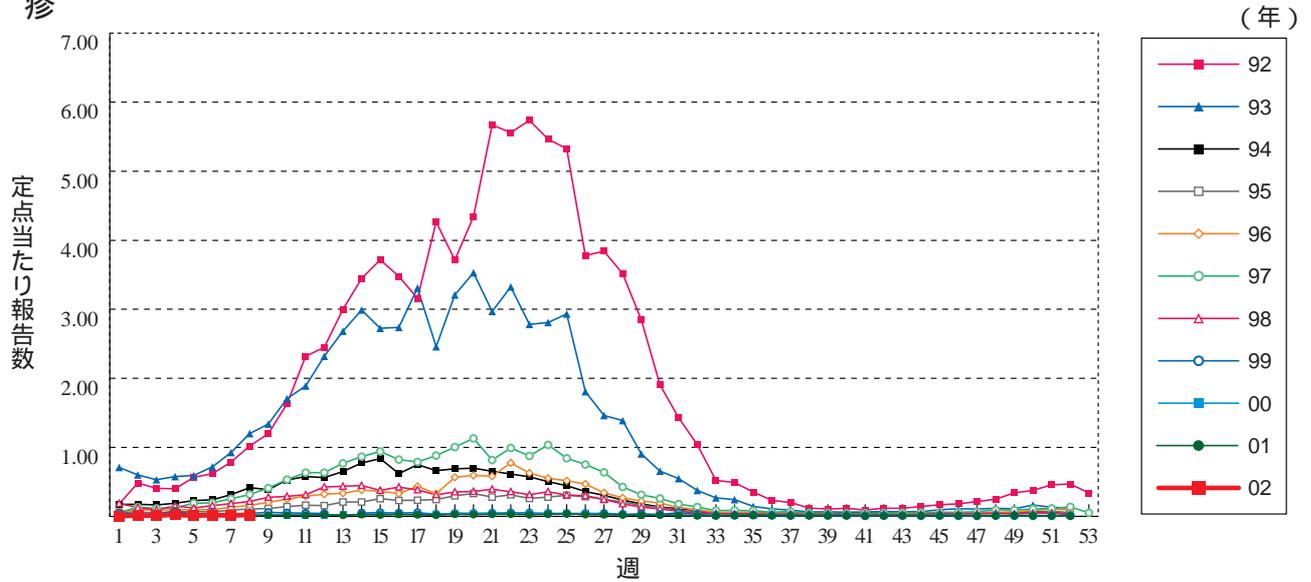
突発性発疹



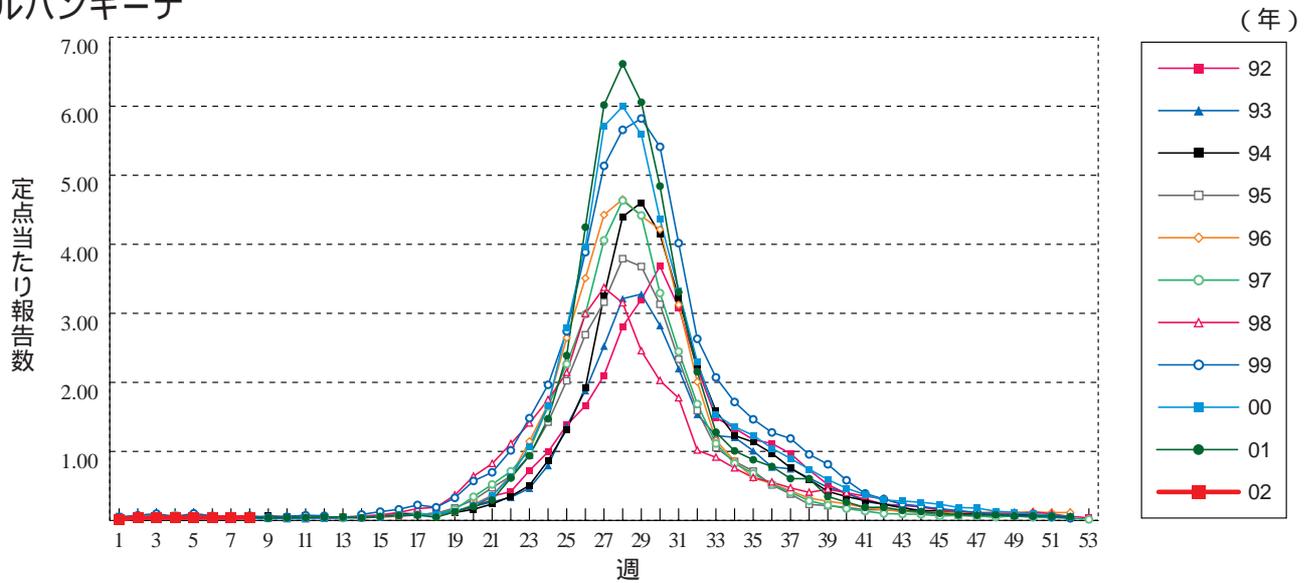
百日咳



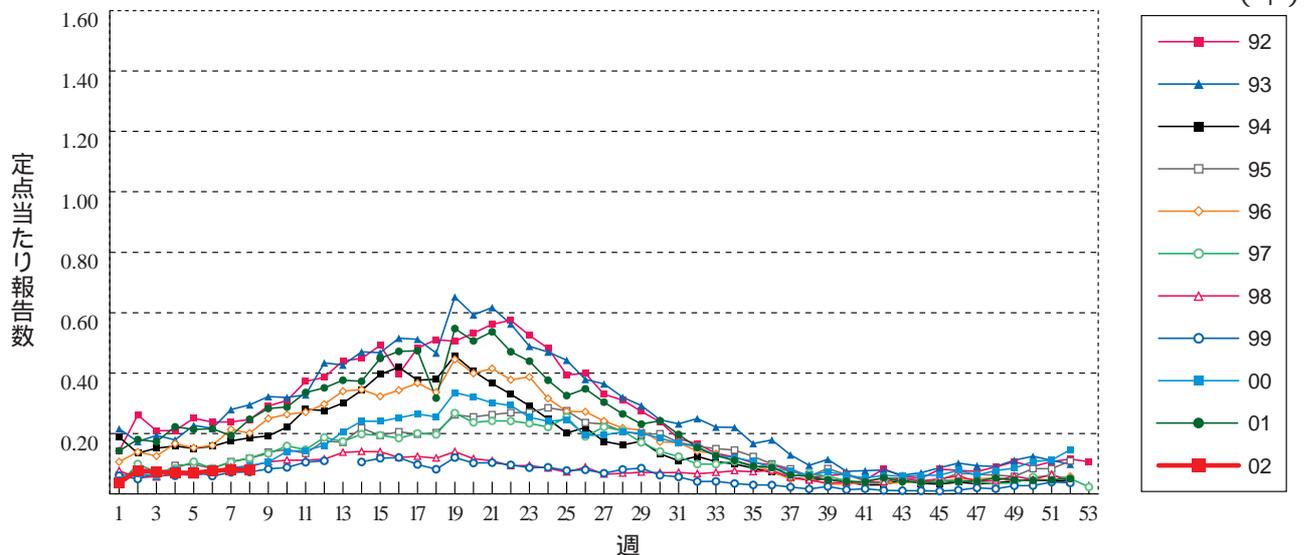
風 疹



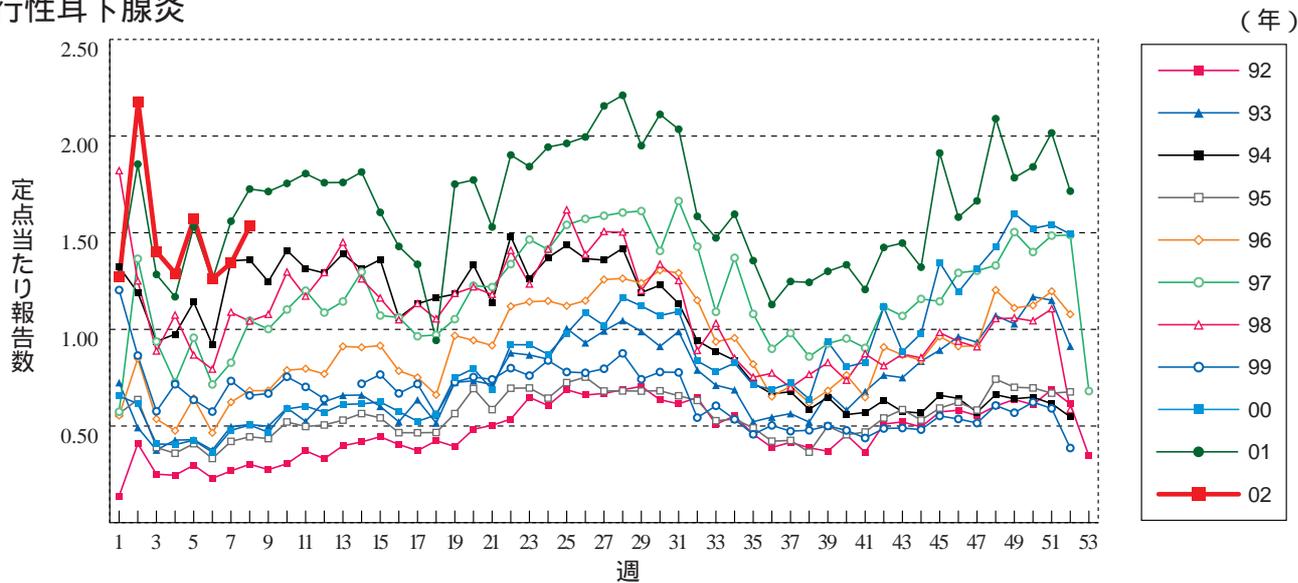
ヘルパンギーナ



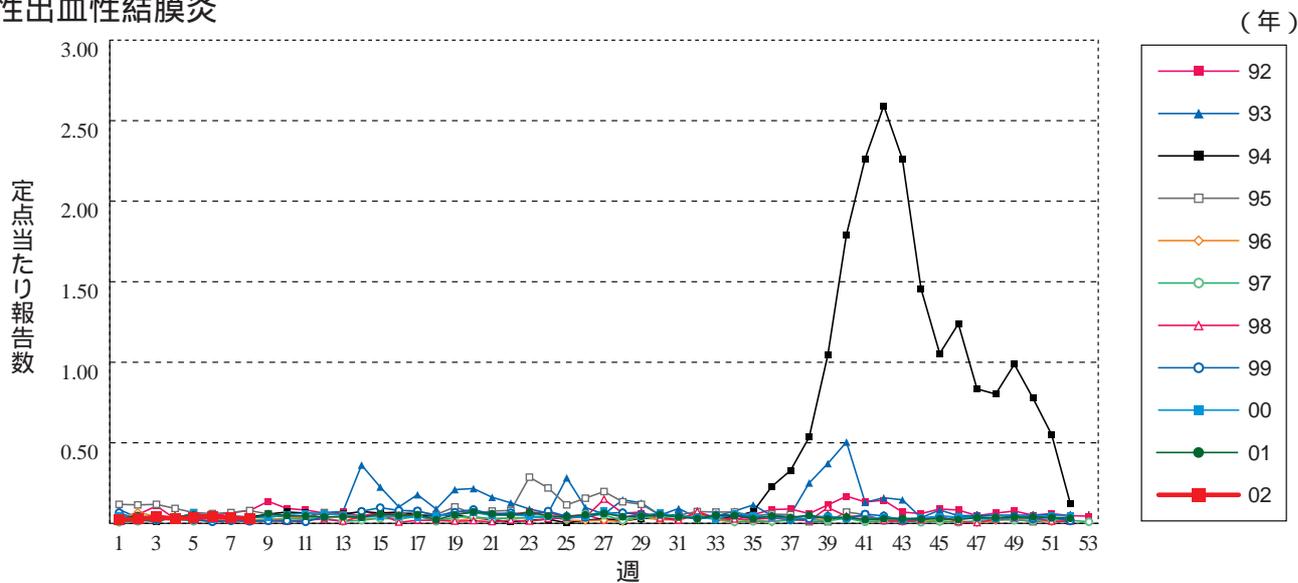
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



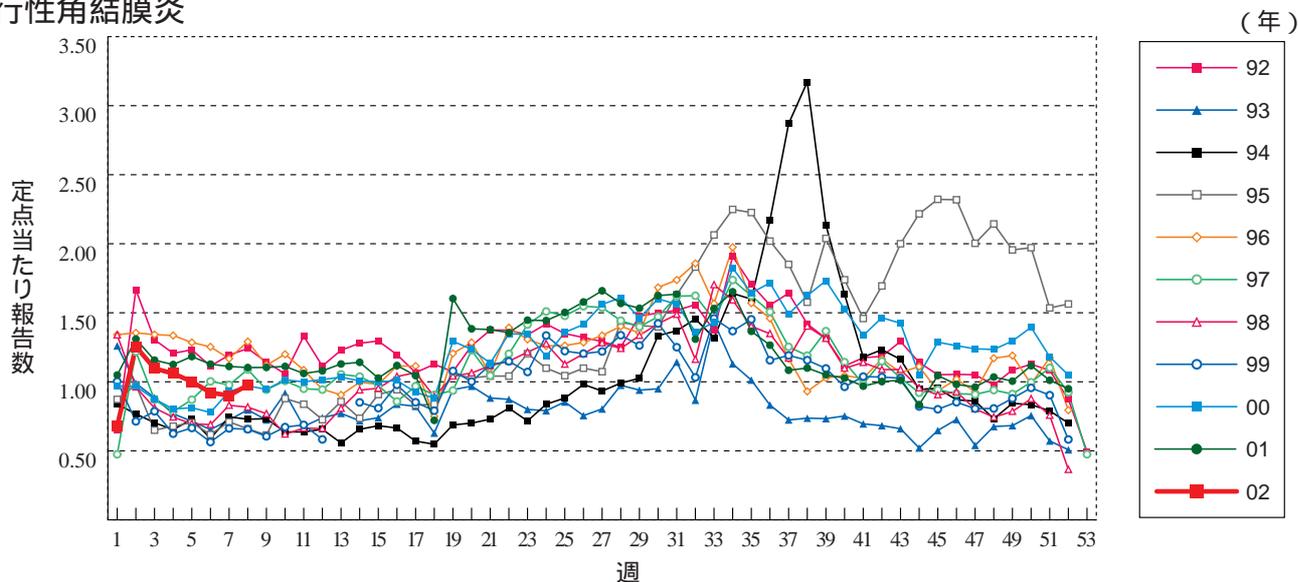
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

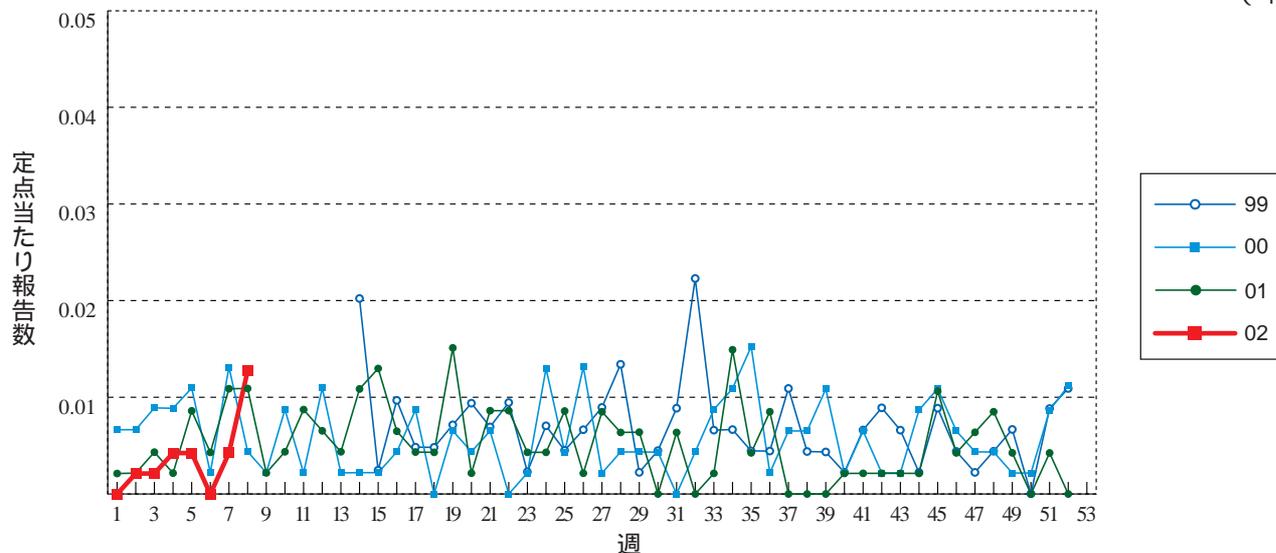


流行性角結膜炎



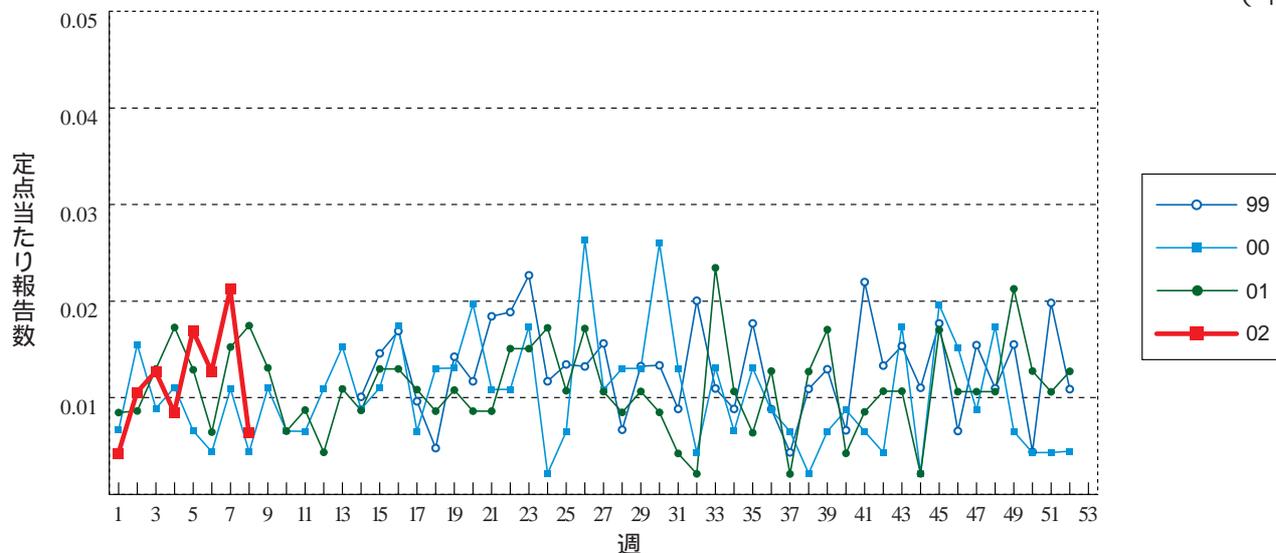
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



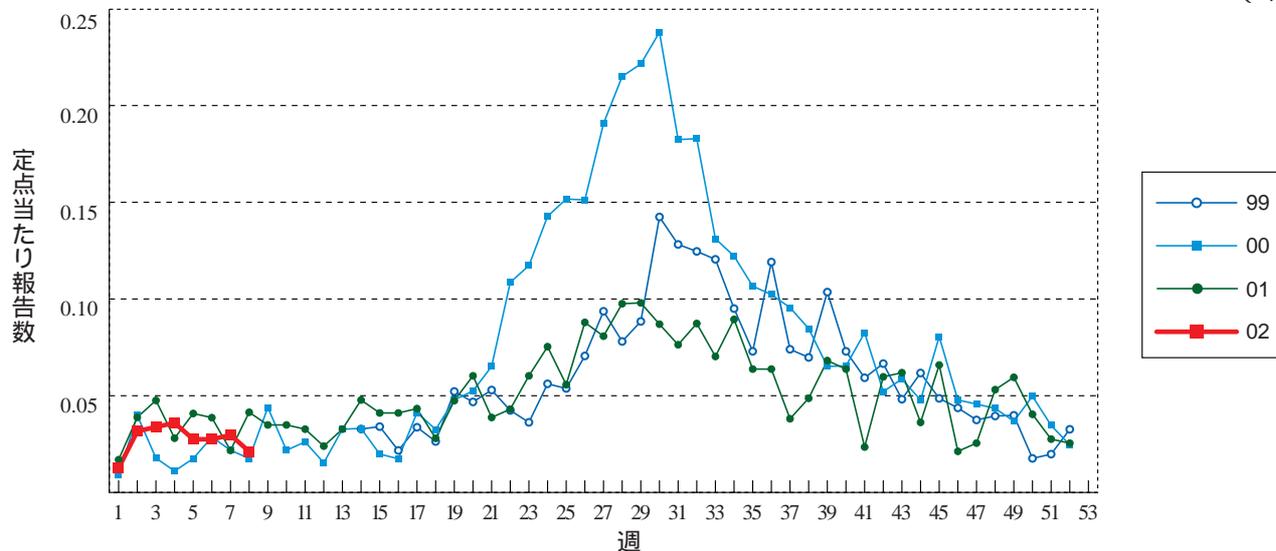
細菌性髄膜炎

(年)



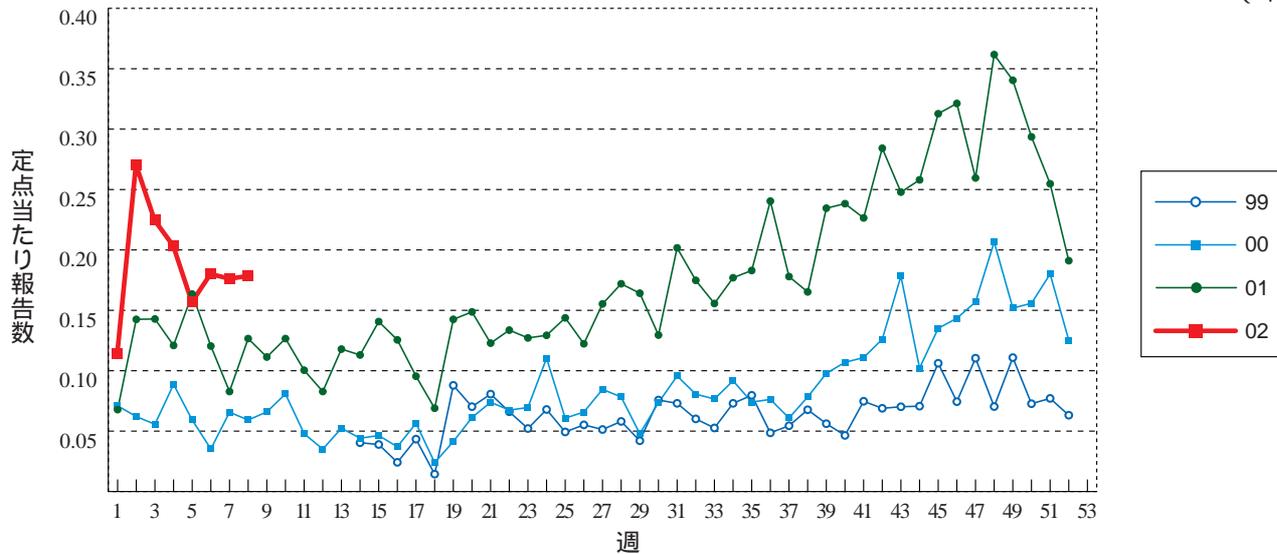
無菌性髄膜炎

(年)



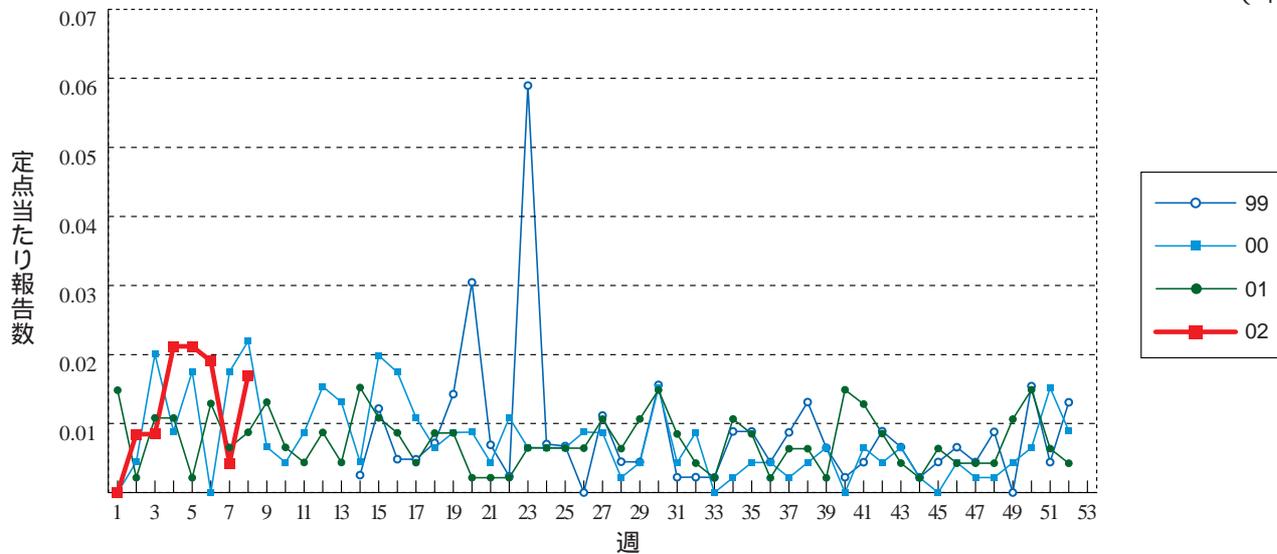
マイコプラズマ肺炎

(年)



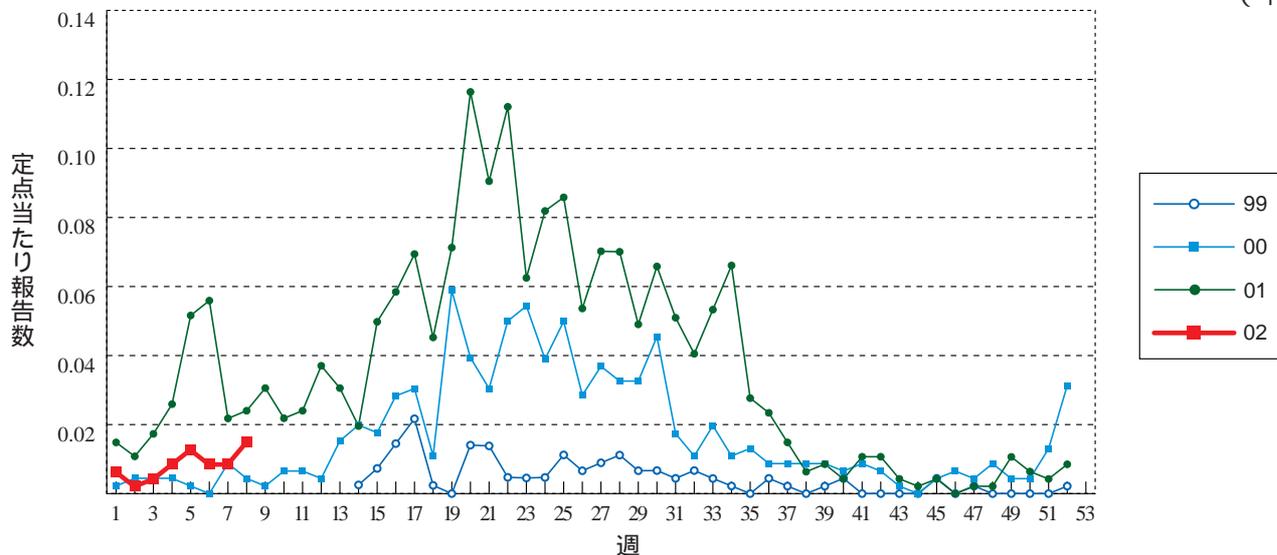
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





8週のデータ

注)表中の報告数は2月28日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年8週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	17	179	3	7	1	6
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	60	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	12	2	4	-	2	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	27	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年8週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	9	72	3	45	-	2	-	-	-	14	-	-	8	129
北海道	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
東京都	-	-	-	-	-	3	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	23
神奈川県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛知県	-	-	-	-	4	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
大阪府	-	-	-	-	-	5	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-	1	7
兵庫県	-	-	-	-	1	18	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	4
広島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	1	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年8週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	1	-	-	-	1	2	22	-	19	7	92	-	1	-	10	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	3	42	-	-	-	3	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	2	-	2	1	5	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年8週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	29	1	5	-	-	-	-	-	-	6	75	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
東京都	-	-	-	-	-	-	3	1	4	-	-	-	-	-	-	-	13	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	5	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年8週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	6	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	1	19
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	3
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年8週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	91248	19.50	112	0.04	4385	1.45	31393	10.37	5929	1.96	384	0.13	1130	0.37	2043	0.68	20	0.01
北海道	4091	17.79	14	0.10	486	3.35	461	3.18	199	1.37	23	0.16	47	0.32	79	0.54	2	0.01
青森県	2028	31.69	-	-	59	1.44	163	3.98	51	1.24	5	0.12	44	1.07	20	0.49	-	-
岩手県	1947	31.92	1	0.03	58	1.57	239	6.46	61	1.65	4	0.11	3	0.08	19	0.51	2	0.05
宮城県	2427	25.02	-	-	75	1.27	1031	17.47	136	2.31	9	0.15	31	0.53	43	0.73	-	-
秋田県	1188	21.60	2	0.06	61	1.74	376	10.74	72	2.06	4	0.11	57	1.63	15	0.43	-	-
山形県	1365	28.44	-	-	123	4.10	511	17.03	88	2.93	3	0.10	21	0.70	24	0.80	-	-
福島県	2383	29.79	-	-	100	2.17	503	10.93	115	2.50	19	0.41	29	0.63	38	0.83	-	-
茨城県	1775	15.04	-	-	93	1.26	473	6.39	92	1.24	4	0.05	25	0.34	26	0.35	-	-
栃木県	1434	20.49	3	0.07	64	1.39	411	8.93	52	1.13	3	0.07	31	0.67	25	0.54	-	-
群馬県	1677	16.77	1	0.02	72	1.16	347	5.60	122	1.97	2	0.03	13	0.21	29	0.47	-	-
埼玉県	6994	27.54	4	0.03	230	1.46	1903	12.12	324	2.06	8	0.05	44	0.28	103	0.66	-	-
千葉県	5785	29.07	4	0.03	202	1.53	1632	12.36	298	2.26	2	0.02	51	0.39	94	0.71	1	0.01
東京都	2464	13.84	3	0.02	93	0.65	1194	8.41	157	1.11	7	0.05	26	0.18	47	0.33	-	-
神奈川県	6953	21.20	14	0.07	221	1.07	2156	10.47	321	1.56	14	0.07	81	0.39	185	0.90	1	0.00
新潟県	2471	29.77	9	0.18	176	3.52	680	13.60	142	2.84	28	0.56	30	0.60	37	0.74	-	-
富山県	806	16.79	-	-	133	4.59	320	11.03	65	2.24	20	0.69	56	1.93	19	0.66	-	-
石川県	1002	20.88	-	-	66	2.28	350	12.07	101	3.48	10	0.34	43	1.48	18	0.62	-	-
福井県	418	13.06	-	-	90	4.09	411	18.68	78	3.55	-	-	9	0.41	19	0.86	-	-
山梨県	707	17.24	-	-	30	1.20	149	5.96	30	1.20	3	0.12	3	0.12	4	0.16	-	-
長野県	2166	25.19	-	-	132	2.44	620	11.48	90	1.67	6	0.11	31	0.57	36	0.67	-	-
岐阜県	2107	30.10	-	-	58	1.23	332	7.06	47	1.00	18	0.38	14	0.30	27	0.57	-	-
静岡県	3408	24.88	-	-	97	1.13	902	10.49	238	2.77	22	0.26	36	0.42	65	0.76	-	-
愛知県	4975	26.05	8	0.04	134	0.74	1215	6.68	226	1.24	30	0.16	34	0.19	114	0.63	4	0.02
三重県	2083	28.53	1	0.02	53	1.18	685	15.22	88	1.96	4	0.09	34	0.76	52	1.16	-	-
滋賀県	414	7.96	-	-	17	0.53	166	5.19	72	2.25	3	0.09	6	0.19	17	0.53	-	-
京都府	1352	10.73	1	0.01	67	0.88	701	9.22	97	1.28	14	0.18	41	0.54	44	0.58	-	-
大阪府	2758	9.07	12	0.06	160	0.82	1378	7.07	349	1.79	20	0.10	44	0.23	122	0.63	2	0.01
兵庫県	3338	16.86	2	0.02	137	1.07	1490	11.64	317	2.48	8	0.06	36	0.28	103	0.80	1	0.01
奈良県	690	12.55	1	0.03	26	0.74	344	9.83	46	1.31	5	0.14	13	0.37	20	0.57	-	-
和歌山県	721	14.42	-	-	19	0.61	288	9.29	41	1.32	7	0.23	4	0.13	11	0.35	-	-
鳥取県	594	20.48	1	0.05	43	2.26	261	13.74	31	1.63	3	0.16	6	0.32	25	1.32	-	-
島根県	300	7.89	2	0.09	43	1.87	154	6.70	26	1.13	15	0.65	13	0.57	11	0.48	-	-
岡山県	1066	12.69	3	0.06	27	0.50	507	9.39	61	1.13	13	0.24	8	0.15	19	0.35	-	-
広島県	3756	31.56	3	0.04	60	0.80	967	12.89	141	1.88	16	0.21	10	0.13	49	0.65	1	0.01
山口県	1021	14.59	2	0.04	89	1.82	719	14.67	130	2.65	7	0.14	17	0.35	46	0.94	1	0.02
徳島県	584	15.37	-	-	13	0.57	222	9.65	45	1.96	1	0.04	4	0.17	10	0.43	-	-
香川県	700	13.73	-	-	24	0.75	436	13.63	97	3.03	6	0.19	13	0.41	17	0.53	-	-
愛媛県	2129	33.27	9	0.23	55	1.41	401	10.28	91	2.33	-	-	21	0.54	34	0.87	-	-
高知県	780	15.92	-	-	64	2.06	244	7.87	51	1.65	7	0.23	11	0.35	12	0.39	-	-
福岡県	1795	9.07	-	-	332	2.77	2459	20.49	361	3.01	2	0.02	16	0.13	131	1.09	-	-
佐賀県	335	8.59	-	-	26	1.13	270	11.74	61	2.65	2	0.09	9	0.39	34	1.48	-	-
長崎県	976	13.94	-	-	21	0.48	433	9.84	86	1.95	-	-	22	0.50	28	0.64	-	-
熊本県	1073	13.25	-	-	60	1.22	660	13.47	82	1.67	-	-	20	0.41	36	0.73	5	0.10
大分県	893	15.40	4	0.11	50	1.39	927	25.75	124	3.44	1	0.03	5	0.14	46	1.28	-	-
宮崎県	1266	21.10	-	-	91	2.46	497	13.43	118	3.19	-	-	12	0.32	43	1.16	-	-
鹿児島県	1511	15.42	7	0.12	45	0.75	759	12.65	201	3.35	1	0.02	6	0.10	33	0.55	-	-
沖縄県	542	9.34	1	0.03	10	0.29	46	1.35	108	3.18	5	0.15	-	-	14	0.41	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年8週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	60	0.02	141	0.05	243	0.08	4648	1.54	19	0.03	620	0.98	6	0.01	3	0.01	10	0.02
北海道	1	0.01	2	0.01	9	0.06	75	0.52	-	-	28	0.97	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	3	0.07	9	0.22	78	1.90	1	0.09	4	0.36	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	44	1.19	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	2	0.03	2	0.03	3	0.05	125	2.12	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	83	2.37	1	0.14	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	168	5.60	-	-	23	2.88	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	8	0.17	108	2.35	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	3	0.04	102	1.38	-	-	45	2.81	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	101	2.20	-	-	15	1.25	2	0.29	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	8	0.13	56	0.90	2	0.14	25	1.79	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	3	0.02	33	0.21	102	0.65	1	0.03	19	0.53	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	2	0.02	26	0.20	168	1.27	2	0.06	37	1.06	-	-	-	-	-	-
東京都	3	0.02	8	0.06	1	0.01	65	0.46	-	-	20	1.43	1	0.04	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	3	0.01	9	0.04	181	0.88	1	0.02	33	0.79	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	4	0.08	-	-	144	2.88	-	-	7	1.17	-	-	1	0.08	1	0.08
富山県	-	-	1	0.03	6	0.21	136	4.69	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	0.03	-	-	129	4.45	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	7	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	-	-	2	0.08	59	2.36	-	-	2	0.67	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	1	0.02	1	0.02	185	3.43	-	-	15	1.50	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	1	0.02	3	0.06	100	2.13	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	-	-	14	0.16	162	1.88	-	-	9	0.45	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.02	7	0.04	68	0.37	218	1.20	-	-	23	0.66	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.02	2	0.04	72	1.60	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	2	0.06	36	1.13	-	-	4	0.57	-	-	1	0.14	-	-
京都府	1	0.01	-	-	2	0.03	69	0.91	-	-	2	0.11	-	-	-	-	-	-
大阪府	5	0.03	9	0.05	2	0.01	175	0.90	-	-	22	0.42	-	-	1	0.07	1	0.07
兵庫県	1	0.01	2	0.02	5	0.04	163	1.27	-	-	27	0.75	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	1	0.03	-	-	55	1.57	-	-	12	1.33	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	5	0.16	63	2.03	-	-	5	1.25	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.05	1	0.05	14	0.74	26	1.37	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	1	0.04	25	1.09	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	97	1.80	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
広島県	7	0.09	7	0.09	2	0.03	77	1.03	1	0.05	22	1.10	-	-	-	-	-	-
山口県	1	0.02	11	0.22	-	-	33	0.67	1	0.11	24	2.67	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	1	0.04	-	-	57	2.48	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	34	1.06	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	4	0.10	-	-	109	2.79	1	0.14	20	2.86	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	1	0.03	-	-	12	0.39	1	0.33	5	1.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	25	0.21	20	0.17	1	0.01	222	1.85	1	0.04	38	1.46	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	3	0.13	3	0.13	43	1.87	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	1	0.02	-	-	59	1.34	6	0.75	17	2.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	20	0.41	-	-	45	0.92	-	-	6	0.67	1	0.07	-	-	1	0.07
大分県	-	-	19	0.53	1	0.03	93	2.58	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	1	0.03	-	-	107	2.89	-	-	13	3.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	2	0.03	-	-	-	-	132	2.20	-	-	15	2.50	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	1	0.03	-	-	248	7.29	-	-	16	1.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年8週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	84	0.18	8	0.02	7	0.01
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	6	0.30	-	-	1	0.05
宮城県	6	0.50	1	0.08	-	-
秋田県	3	0.38	-	-	-	-
山形県	1	0.10	-	-	3	0.30
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	1	0.14	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	-	-	-	-
千葉県	5	0.38	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	2	0.18	-	-	2	0.18
新潟県	6	0.50	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	4	0.40	-	-
長野県	2	0.18	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	5	0.33	-	-	-	-
兵庫県	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	5	0.63	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	7	0.33	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	6	1.00	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	3	0.25	-	-	-	-
熊本県	8	0.53	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	2	0.29	-	-

感染症週報 第4巻、第8号 平成14年3月8日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

http://www.mhlw.go.jp/

<厚生労働省>

http://www.forth.go.jp/

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。